

## 日独で働き方改革のベスト・プラクティスを共有

日独シンポジウム「働き方改革の未来～人に寄り添うデジタル化とは」

開催日：2019年5月24日（水）

場所：経団連会館

プログラム

来賓挨拶 マルティン・ポール 駐日ドイツ連邦共和国大使館 厚生労働参事官

講演 「Ready for Change: Humanizing the Digital Era」

オリバー・ブルクハルト ティッセンクルップ 最高人事責任者

パネルディスカッション

オリバー・ブルクハルト ティッセンクルップ 最高人事責任者

坂田 甲一 トッパン・フォームズ 代表取締役社長

白井 久美子 日本ユニシス 執行役員

ウォルフガング・グララー 三菱ふそうトラック・バス 人事本部長

武石 恵美子 法政大学教授（モデレーター）

経済広報センターは5月24日、経団連会館でシンポジウム「働き方改革の未来～人に寄り添うデジタル化とは」を開催し、日独両国の企業、政府、研究機関等から約90名が出席した。

前半の部では、駐日ドイツ連邦共和国大使館のマルティン・ポール厚生労働参事官による来賓あいさつの後、ドイツの鉄鋼・エンジニアリング大手ティッセンクルップのオリバー・ブルクハルト最高人事責任者が基調講演を行った。

後半のパネルディスカッションでは、武石恵美子法政大学教授をモデレーターに迎え、坂田甲一トッパン・フォームズ社長、白井久美子日本ユニシス執行役員、ウォルフガング・グララー三菱ふそうトラック・バス人事本部長、ブルクハルト氏が登壇。働き方改革を断行するためには、中期経営計画など数年にわたる時間軸に織り込んだ



パネルディスカッションの様子

（左からブルクハルト氏、坂田氏、白井氏、グララー氏、武石氏）

うえで成果を定量化すること、経営陣が率先して意識改革を行い、ロールモデルとなることで従業員に納得感を広めること、さらに、それを支援するものとして、IT活用による効率化や人事・勤労制度の多様化に頼ることなく、タテ・ヨコの対話を繰り返し、社内で問題意識や目指すところを繰り返し共有することなどが重要ということで一致した。

以上